



〒892-0841 鹿児島市照国町13-42 カトリック鹿児島教区 電話099(26)5100 振込口座 02030-2-8359 編集発行 教区広報部

道 標



台湾からの巡礼団にザビエルクイズ

みんなの笑顔いっぱい祭典

今年のザビエル上陸記念祭

聖フランシスコ・ザビエルの鹿児島上陸を記念する恒例の「ザビエル上陸記念祭」に、今年は台湾からの巡礼団が駆けつけたほか、初の試み「ザビエルクイズ」も実施されるなど、マンネリ化が危ぶまれていた同記念祭が活気あるものとなった。また今年には揃いの法被も用意され、大勢の信者が法被姿で「ザビエルの熱き想い」を市民にアピールし、また信者自らも聖師の遺業を称えただけでなく、夏祭りさながらに祝賀会の楽しい交流のひとつを楽しんだ。

今年のザビエル上陸記念祭は八月十七日(日)、ザビエル上陸記念碑前(祇園之洲)からカテドラル(ザ



今年は法被を揃えてザビエルウォーク (鹿児島市祇園之洲)

れ、市民へのアピール度も高いものとなった。約百人のウォーク一行は午後二時の開会式後、青

年のリードのもと聖歌を歌い、ロザリオの祈りを唱えながら、ザビエルの味わった苦勞を一部でも体験しようとする。横断幕とともに記念ミサのささげられるザビエル教会を目指した。平和の鐘を鳴らそう 鹿児島ユネスコ協会と

新風

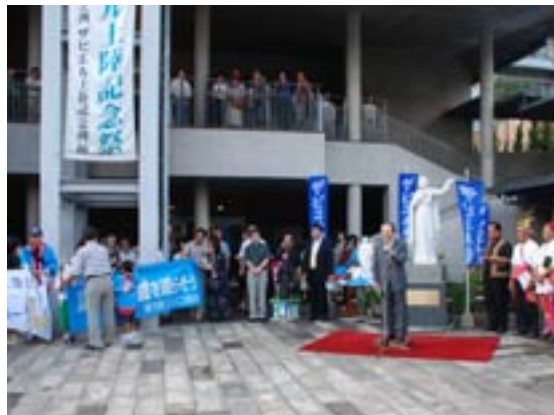
聖霊降臨後、十二使徒たちによる福音宣教活動により、キリスト信者が飛躍的に増えていきました。多くのユダヤ人がキリスト教に改宗したのです。その中にパウロもいました。生粋のユダヤ人でユダヤ教の教師だった彼は、当初キリスト教に改宗したユダヤ人をユダヤ教に引き戻すために激しく迫害していました。しかし、そんな彼がキリストの示現にあつてキリスト教に改宗したのです。(使徒言行

聖パウロ年に寄せて(その1)

しかし、彼はそのつらさを異邦人(ユダヤ人以外の民族)への宣教へと振り向けます。自分の過去を振り返れば、とても神の使者とはいえない立場でしたが、「わたしの恵み

はあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分発揮されるのだ」(コリントの信徒への手紙二 12章9節) というキリストのこぼしに支えられて、「わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあっても、キリストのために満足していません」(同上10節)と

告白しています。起き上がりこぼしのような「それでも」の精神はまさにパウロの精神そのものだといえます。(H・N)



⑤ユネスコ協会と協力しての平和の鐘を鳴らそう ⑥聖堂は400人を超える人で埋め尽くされた

ザビエルウォーク 二〇〇六年から青年たちの担当で続けられているザビエルウォークには、子どもたち(鴨池教会学校)が作り上げたザビエルみこしが初参加し、また信徒の多くが「ザビエルの熱き想いを」と訴える揃いの法被姿で行進するなど一体感に溢

年の記念ミサでひとときわ目立ったのは、鮮やかな民族衣装を身に纏った台湾アミス族の二十八人の巡礼団。団長の曾司教と共に平和の鐘を鳴らそう運動から加わった一行は、ミサ、祝賀会にも参加し信者達と温かい交流のひとつを過ごした。「二面に曾司教挨拶」

ミサで説教した郡山司教は、鹿児島でのザビエルと忍室和尚との交流を例に挙げ、宣教の始まりは人を受け入れる心「共感する心」

だと思へ、出会った人をそのまま受け止めてあげることが大切だと説いた。ミサでは子どもたちが共同祈願で平和を祈ったほか、在鹿フィリピン人の代表がタガログ語で鹿児島に住む外国人が困難に負けないよう祈るなど教区の絆を深めるものも多かった。そしてミサの終りには青年代表が決意表明し、宣教への意気込みを示し、ミサを締めくくった。

祝賀会 信者同士の交流を深めようと企画されている祝賀会も今年はパワーに溢れていた。何よりも台湾からの巡礼団による踊りの披露、そしてそれに負けじと踊った婦人たち、また急遽出演してくれたゴスペルグループの美しい歌声。将来のザビエル検定を見据えて始められた「ザビエルクイズ」など。楽しさ一杯。踊りの輪の中には色々な立場と国籍の人が入り交じり、輪が大きくなるのと相俟って、皆の笑顔の数が増える楽しい祝賀会となった。

YET

真夏の街を かつて自分が そうだったように、世界が 自分を中心に 回っているかのような思いで大勢の若者が歩いてい

誰もその問いに答えられずにいる。社会での己の生き様と教会の言う理想との狭間で苦しんでいる「自分の姿」が見えていないから？？本音と建前を使い分けることのできる思慮深い大人ならまだしも「したたかに生きる」なんてことを、今は潔しと思えないでいる若い世代にどんな形で今の教会の大切さを、「したたかに生きる」ことの凄さを説明したらよいのか、皆でもっと苦しむべきなのかもしれない。



流暢な日本語の曾司教

郡山司教様、ご列席の神父様、シスターの皆様、そして主において兄弟姉妹である皆様、こんにちは。まず自己紹介をさせて頂きま

私たちは、日本の南にある台湾から参りました。皆様にとって台湾は、馴染みのある所だと思えます。六十数年前までは、日本が治めていた島国です。そして私たちは、この島国の原住民、つまり最も古い住民であります。

今、台湾の人口は二千三百万人ですが、原住民は約四十六万人で、十四の異なる言語、文化、習俗に分かれています。私たちのこのグループは、台湾の民族の中で最も人口の多いアミス族です。十六万人います。最も少ない民族は二百八人です。

私たちのグループは、台湾東部の台東縣に住んでいます。二十数年前、台湾社会の変化によって、生活の必要から、多くの若者が都会に出て、仕事を探し、そのままそこに留まるようになりまし。故郷に残ったのは年寄りと子どもだけでした。このような地域社会の姿は、私たちにとても大きな衝撃になりました。しかし私たちは、それは仕方がないことだと感じました。でも教会が私たちと共

にありましたから、生活の中で、どんなに悔しいこと、不公平なことがあっても、信仰の支えのおかげで、すべてを任せ、心安らかに過ごすことができました。イエスはおっしゃいました。

「あなたたちは人間なのだから、天の父がお見捨てになるはずがない」

台湾の原住民四十六万人のうち、九〇%がキリスト教信仰を受け入れています。五十数年前、欧米の各修道会の男女宣教師がキリストの福音を原住民社会にもたらしました。幸いなことに、私たちの先代達はキリストの教会を受け入れました。この信仰は更に私たちに主の慈しみには国や種

台湾花蓮教区

曾司教挨拶

ザビエル祭へのお招きありがとうございます

族の区別がないことを教えました。ちよほど私たちが今ここで、記念の集いに参加しているように、それは家族でお祝いの席を囲んでいるのと同じなのです。

台湾の人口は二千三百万人ですが、残念なことにキリストの信仰を受け入れたカトリック信者は三十万人しかいません。しかし原住民は信者の三分の一以上を占めています。別のことで言えば、台湾の漢民族は日本と同じようになかなかキリストを受け入れません。でも私たちは気を落とす必要はありません。イエスはおっしゃいました。

「収穫のために働き手を送ってくださいるよう、収穫

の主に願いなさい」キリストをまだ知らない人達のために宣教し、彼らのために祈りましょう。

台湾には巡礼地が何か所かありますが、私がある教会もちょっと有名な所です。昨年、鹿児島教区の信者さんのグループが私たちの所に巡礼にいらつしやいました。私たち台湾の原住民はもともとお客さんをお迎えするのが好きな民族です。その時遠くからいらつしやった日本の信者さんと私たち現地の信者たちは、とてもよい交流会を持ちました。そして今、皆様の温かいご招待を受け、私たちは自信を持ってここに参りました。



エネルギッシュな台湾からの巡礼団の踊り

計画をして下さいました。おかげで私たちはこのような盛大な式典に参加することができました。何度

も何度もありがとうございます。聖フランシスコ・ザビエルは、皆様の教区の保護の聖人です。ザビエルは台湾の教会でもよく知られており、台湾の教会では「ザビエルは東方に至り、早い時代に宣教への扉を開いた先駆者だ」と称えています。

「全世界の人々に福音を伝えなさい」これはキリストが使徒たちにお命じになったことばです。聖なる教会の二千年の歴史の中で教えきれないほどの男女の信者が神様の呼びかけにこたえ、神聖で偉大な動きに自分をささげてきました。そして聖なる

素願さんは、色々準備と

に福音の種を蒔いてきたのです。これらの歴史に名を残す偉大な宣教師の中に、今日、皆様も記念している聖フランシスコ・ザビエルがいます。ありがとうございますことに私たちがこの記念式典に参加してあります。とても光栄なことであり、永く心に刻みます。どうか一緒に祈らせて下さい。聖人が私たちに、神様に執り成してください、神様の恵みが私たちの間に満ち溢れ、より多くの人がキリストを受け入れますように。

皆様、互いに祈り合いましよう。もしチャンスがあれば、どうか台湾にいらして下さい。私たちはいつも皆様をお待ちしています。神様の平和がいつも皆様と共にありますように。

司教執務室便り

共存共栄

オーストラリアと聞く南極に近い丸い大きな大陸。コアラにカンガルー、シドニーオリンピック。そんなことぐらいしか思い出せない国だった。人口が二千万かそこらで、カトリック信者が五百万。これも、最近分かったことだった。

「日本ではとてもできないね」と同行した司教様が感に堪えたように感想を漏らしたほどスケールの大きさは言葉に尽くせない。ワールドユースデーの開会式ミサと教皇歓迎の会場として二回しか使用しない巨大ステージ。夕の折りと最後の教皇ミサのため、これも二回のためのビル五階建てほどの超巨大ステージ。つい、一体どれぐらいの費用がかかったものだろうかと心配してしまつた。それ

に、七泊したホテル代もこちらの事務局持ち。五つ星オーストラリアのカトリック教会は破産しないものかとまたまた心配になった。しかし、どうやらそんな心配は無用ではないかと思える節がある。

大会期間中、胸に身分証をかけた大会参加者は市内の交通機関が無料。それに、送迎用の車両七十台はフォルクスワーゲン社の提供。もつとも、事務局側の出費がゼロではないとしても、こうした、絶大なサービスがあつたことを思うと、ホテル側も「私たちにもできるだけのサービスをさせてもらいます」ということになったのではないか。ありそうなことだ。

さらに、配布されたバッグの中身の一つに「パスポート」なるものがあつ

+KABAYAN SEKSIYON+ "Ang Pangatlong kabanat: Ang tugon ng tao sa Dios"

Nalaman na natin kung paano makilala ang Dios na Buhay sa pamamagitan ng Salita ng Dios. Sa unang kabanata, napag-aralan natin ang kapasidad ng tao para sa Dios. Na ang pagpangalan ng tao sa Dios ay isinulat na sa kanyang puso at dito unti-unting itinuturo ng Dios ang daan para makilala Siya ng kanyang mga nilikha, lalung-lalo na ang tao. Ang pangalawang kabanata naman ay ang pagdating ng Dios para salubungin ang tao ipinahayag ng Dios ang kanyang "plano ng kagandahang pagmamahal o kabutihan." Una ipinahayag ng Dios ang kanyang pakipagtipan kay Noah, tapos ang pagpili niya kay Abraham at ang pagbuo ng sambayanang Israel hanggan sa sumapit ang pagpahayag ng kanyang tagapamagitan ng tao at ng Dios diyang kay Kristo Jesus at hanggang makarating din sa atin sa pamamagitan ng tradisyon apostoliko na ipinasa rin sa Inang Simbahan. Unti-unti ipinahayag ng Simbahan ang presensiyang ng Dios sa pamamagitan ng Banal na Kasulatan at dito ang Simbahang ay patuloy na ipinapahayag at itinuturo ang plano ng kaligtasan nang lahat ng tao. Kailangan mamuhay ang tao sa pamamagitan ng pananampalataya sa Dios, dahil diyang ay makilala at mararanasan ng tao ang Dios sa kanyang buhay araw-araw. Kaya sa pangatlong kabanata, ipagpapatuloy natin ang paksa: Ang tugon ng tao para sa Dios. Sa Kanyang pagpahayag, ang Dios na di nakikita, na sa kanyang kagandahang loob o pag-ibig ay kinikilala niya ang tao bilang kanyang kaibigan at siya'y nakikihalubilo sa kanila para anyayahan at tanggapin bilang kanyang kasama." Kaya ang pagtugon nitong paanyaya ay pananampalataya Sa pamamagitan ng pananampalataya, ang tao ay buong ibinibigay niya ang kanyang talino at kalooban sa Dios. At sa kanyang buong katauhan, ibinibigay ng tao ang pakikipagsundo sa Dios na nagpapahayag. Ang Banal na kasulatan ay tumatawag sa pagtugon ng sang katauhan sa Dios, ang may akda ng pagpahayag," ang pagsunod sa pananampalataya. Kaya mga kababayan, mas paigihin natin ang ating buhay sa ngalan ng pananampalataya at pag-ibig sa Dios at kapwa.



た。開いてみて驚いた。このパスポートを提示することで、空港での買い物物が二〇%安くなるというものだった。あの手この手でスポンサーを募り、こうして世紀の一大イベントを成功させることができた。世の人々の思惑をちゃっかり利用するしたたかさ。 そんな風に思うと少しは気が楽になったが。それにしても、新天地を開拓した人々の発想とか信仰の姿は奔放。まさに雑草のごとくしたたかだった。踏まれても起き上がる。信仰の真骨頂?ワールドユースデー成功の秘訣が世の人々との共存共栄にあつたとは。鹿児島教区でももつと奇抜なことができそうなのがしてきた。

信徒総数は九三五三人

二〇〇七年カトリック鹿兒島教区教勢

二〇〇七年十二月三十一日付の教区教勢がまとまった。

それによると鹿兒島教区の信徒総数は、前の年と比べ一七人減少の九三五三人。信徒総数から居所不明者を除いた信徒実数は八九八九人となり、九〇〇〇人台を下回った。原因は居所不明者の数が四〇人増えていることであるが、これは班組織や小教区担当司祭の働きによって在籍信徒の本来の姿が明らかになったためと考えられる。

二〇〇七年の受洗者は男性五三人、女性八三人の一三六人。内約半数が幼児洗礼となっている。また受洗者は七九人で、初聖体を



第四十回 目となるカトリック幼稚園協会夏季教師研修大会が七月二十五日(金)から一泊二日の日程で霧島国際ホテルであった。今年

のテーマは「子どもたちにイエスさまを紹介するために」。講師は竹山昭神父。集まった百八十人近い先生たちは、いつも子どもたちと唱えている主の祈りの意味などについて熱心に学習し、また親睦を深めた。

幼稚園教師研修会

鹿兒島教区教勢

2007年12月31日現在

小教区	信徒数		居所不明	洗礼			転入			転出			死亡	求道者
	総数	実数		子供	大人	教区内	教区外	その他	教区内	教区外	その他			
ザビエル	942	898	44	5	18	9	5	0	7	10	0	11	27	
玉里	262	245	17	4	0	0	0	0	7	0	5	2	0	
吉野	189	179	10	0	3	0	0	0	0	1	0	3	0	
鴨池	559	505	54	1	1	1	6	3	8	2	0	5	3	
谷山	806	740	66	3	10	5	0	0	4	9	0	10	4	
指宿	90	90	0	0	3	0	2	0	0	1	0	1	0	
紫原	168	162	6	0	0	4	1	6	6	0	0	2	2	
始良	270	261	9	2	3	5	2	0	4	1	0	2	1	
溝辺	24	24	0	3	3	0	0	0	0	1	0	0	1	
種子島	100	100	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2	
加世田	136	128	8	2	0	0	0	0	0	0	0	1	4	
計	3546	3332	214	21	41	24	17	9	36	25	5	37	44	
国分	153	149	4	0	0	1	0	0	4	3	0	0	0	
垂水	22	22	0	1	0	0	0	0	2	1	1	1	0	
鹿屋	255	234	21	5	2	6	1	0	11	1	0	1	2	
志布志	87	87	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
計	517	492	25	6	2	9	1	0	17	5	1	2	2	
出水	180	186	0	2	2	0	0	0	0	1	0	6	0	
阿久根	58	57	0	0	2	3	0	0	1	0	0	4	6	
大口	153	160	0	1	0	1	1	0	0	6	0	3	3	
川内	301	292	13	6	2	0	1	0	0	2	0	0	5	
入来	86	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	778	765	13	9	6	4	2	0	1	9	0	13	14	
聖心	880	868	12	8	5	3	2	0	0	1	3	14	1	
古田町	771	737	34	6	2	0	0	0	4	3	0	10	0	
大熊	609	604	5	4	0	2	0	0	0	2	0	5	0	
小宿	345	345	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
古仁屋	194	188	6	0	5	0	0	0	0	1	0	3	0	
瀬留	409	409	0	0	2	1	0	0	0	0	0	9	2	
大笠利	640	594	46	2	2	0	1	0	0	1	0	8	4	
計	3848	3745	103	22	16	6	3	0	4	8	3	51	9	
母間	478	478	0	3	6	2	0	0	1	0	0	14	3	
和泊	186	177	9	4	0	1	0	8	1	0	5	1	1	
計	664	655	9	7	6	3	0	8	2	0	5	15	4	
合計	9353	8989	364	65	71	46	23	17	60	47	14	118	73	

盛大に五十周年祝い

カトリック古田町教会

受け入れた人は五九人だった。危険されるのはやはり主日のミサへの参列者数である。教区全体で復活祭に四二%、降誕祭に五八%の参列という数字は出ているものの、主日のミサとなると全体で二七%に留まり、主日のミサへの出席者が三〇%を超えている教会がほとんどないのが現状で、二〇%以下という小教区も全体の四分の一以上となっている。世界的な「主日のミサ離れ」の動きが鹿兒島教区でも顕著になっている。

マリア教会の愛称で呼ばれる奄美市名瀬の古田町教会が五十周年を記念し、七月二十七日(日)郡山司教押川那覇教区司教を招き記念式典を挙行した。名瀬市四谷区(現古田町)にコンベンツアル会によって教会が建てられたの

小教区で教会学校に力を注いでいること。教会学校に通う幼稚園児・小学生は教区内で三六〇人(内信者は二四六人)おり、中学生で六七人(内信者は六四人)、高校生となっても五五人(内信者三六人)いるのは

喜ばしい。またカトリック関係の幼稚園、中学校、高等学校、短期大学、大学に通う人たちの数は六〇〇八人となっており、各小教区にいる求道者七三人も合わせてカトリックの理解者として大切にしたい。

には五百人を超える信者が集まり、これまで教会と奄美を支えてくれた先達に感謝すると共に今後の教会の成長を誓った。またこの日、幼児の洗礼式もあり、式典に花を添えた。

▼山口好信神父(元カルメル会)は、八月三日付でザビエル教会助任司祭。

▼天使の歌声響く 八月十日(日)カテドラルで「フランスより平和を告げる天使の声」と謳った一人の少年とスイスで活躍する日本人オルガン奏者のコンサートがあった。

▼夏期集中講座 十七回目となった夏期集中講座(講師・竹山昭神父)の今年のテーマは「福音書の奇跡物語を読むために」。八月十八日(月)から二十二日(金)まで五日間に渡ってザビエル教会で開かれたこの講座には、午前の部、午後の部合わせて七十人の信者が参加し、熱心に学習した。

一日のマリアポリin鹿兒島
日時 9月7日(日) 10時15分〜16時30分
場所 教区本部二階会議室
問合せ 直 泰江(TEL〇九九二二六七一四二二)
※どなたでも参加できます。お待ちしております。

9月 今月の暦
1日(月) 川淵勇神父命日(一九九七年)
7日(日) 年間第二十三主日
▼一日のマリアポリ・教区本部・9時
8日(月) 聖マリアの誕生
▼教区司祭会・教区本部・16時
▼七田和三郎神父命日(一九八九年)
9日(火) 定例司祭集会・教区本部・10時
14日(日) 十字架称賛
▼糸永真一名誉司教司祭叙階記念日(一九五二年)
15日(月) 司教座教会献堂記念日・四條淳也さん終身助祭叙階式・カテドラル・10時
16日(火) 奄美司祭会
21日(日) 年間第二十五主日
22日(月) レデンプトール会例会
23日(火) ダニエル神父命日(二〇〇三年)
▼バルビニ神父命日(二〇〇四年)
26日(金) ヴイゴロ神父叙階記念日(一九八二年)
27日(土) メニヒ神父叙階記念日(一九五九年)
28日(日) 年間第二十六主日
▼世界難民移住移動者の日(献金)
毎年九月の第四日曜日とされている「世界難民移住移動者の日」は、一九七〇年、時の教皇パウロ六世が教皇庁移住・移動者司牧評議会を設立したことを受け、「各小教区とカトリック施設が国籍を超えた神の国を求めて、真の信仰共同体を築き、全世界の人々と『共に生きる』決意を新たにする日」として設立されました。「世界難民移住移動者の日」では、おもに滞日・在日外国人、海外からの移住労働者、定住・条約難民、外国人船員や国際交通機関の乗組員とその家族のために「祈り・司牧的協力・献金」がささげられ、それらは日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられています。(カトリック教会情報ハンドブック)から)
▼ロベルト神父叙階記念日(一九七五年)
29日(月) 聖ミカエル 聖ガブリエル 聖ラファエル大天使

「教会の祈り」に思う

みことばに触れ、食べ、生かされる(月)

鹿屋教会 中野恵理子

「神よ、私の口を開いてください。私はあなたに賛美をささげます」この言葉で「教会の祈り」の一日の祈りは始まる。

宗像黙想の家で出合った「教会の祈り」は美しく、それまで経験したことのないものであった。「お告げの祈り」を唱えてから朝の祈りが始まった。歌による「教会の祈り」は荘厳に美しく進んでいった。晩の祈りのはじめは「神よ、私を力づけ、急いで助けに来てください」で始まり、同じく歌によって進められる。寝る前の祈りも同様で、最後に聖母賛歌「サルベ・レジナ」で締めくくられた。「教会の祈り」は大半が詩編による祈りであるが、私はそれまで詩編をこれほ

ど深く味わったことはなかった。帰宅してから早速「教会の祈り」を購入し、朝の祈り・晩の祈り・寝る前の祈りを心がけて祈るように努めている。もちろん一人で唱える祈りなので、聖堂で皆と共同で歌で祈るものとは随分と雰囲気の違いがあるが、詩編を声を出して唱えていると胸に込み上げてくるものがあり、不覚にも涙すら出てくることもある。そういうときは、一人でよかったと思いつつながら思い切り声を詰まらせて唱えるのだが、おそらく詩編に込められた旧約の人々の思いが、現代の私の思いに共鳴するのであろう。そうしてみると人間というものは何千年を経ても本質的には変わらないので

ある。いつも神を賛美し、感謝し、信頼し、懇願していなければ生きられないのだと思う。

この「教会の祈り」を通して私なりの「みことばに触れ、食べ、生かされる」を考察すると、「みことばに触れる」とは、その日の指定されたページを開き、声を出して詩編、旧約の歌、新約の歌、神のことば、福音の歌を唱えること。「みことばを食べる」とは、唱えている「みことば」に心を合わせて祈ることである。そして「みことばに生かされる」とは、どんなことか。「生かされる」となると私の場合どうしても「聖体に行き着かざるを得ない。ただ「みことばは人となり給い、我らのうちに住み給えり」とあるように、人となられたみことばがイエズスの方であるのだから、イエズスの現存そのものである「聖体」に生かされるのが即ちみことばに生かされることになる。

もったいなくも、かくも不肖なる私のような者の中にイエズスご自身が入ってきてくださる。そして私を生かし支えてくださる。ならば、そのみ旨に沿うように生きなければならぬ。弱い私ではあるが、「いつもあなた方と共にいる」と約束してくださったイエズスが私を力づけてくださる。イエズスは決して約束を違えるような方ではないのだから。

WYDシドニー大会に参加して

赤尾木教会 里 良

WYDに参加して何にも変えられないものを沢山得たような気がします。今年三月に洗礼を受けたばかり、世界青年の集いに三十二歳、奄美大島からは私一人での参加、初めての日本の青年との交流、初め

の分かれ合い、初めてのゆるしの秘跡、初めての海外、初めての教皇様。挙げればきりがありませんが、初日から最終日まで楽しくしょうがありませんでした。私の中のテーマは自己

解放です。なかなかできないことですが、日々の日本青年との交流、世界青年との交流、司祭団との交流などによって現地でテーマが付け加わりました。それは「視点」。シドニーには景観地などもありましたが、それよりも色々な人の意見を聞いたりその人々の行動を観察したり、この時この人ほどのような考えの中で

わすかな信仰を持って行きました。その事で素直に人の話が聞け、受け入れることができ、皆さんの青年の優しさを感ずることができたような気がします。交換用の土産がなければノート紙を破り、折鶴を作り Dear Be With You と書き添える。また、自分が困ったときは助けを求めよう。そういうことを繰り返すうちに今までの自分の意識ではないなと気付く、もしかしたらそういうことを考えさせてくれたのが聖霊の力なのかと感ずるようになりました。五つのパンと比べるには大袈裟ですが私のわずかな言葉、わずかな信仰、それが幾つもの触れ合いという恵みになって私に返ってきた感じがします。奄美に帰ってきて、頂いた恵みは一人占めにはできません。私の名はクリストフォロス。キリストを肩に担いだ大男。実際、私は小柄で非力ではありますが名前が恥じぬよう誰かのもとに神があなただを愛している。神があなただを待っている。伝えて生きていきたいと強く感じました。

マリア山荘黙想会 (後期)

神のゆるしの神秘

〈日帰り黙想会 第一回「神は人を見捨てない」 9月25日(木) 10時半〜15時 / 第二回「神のゆるしこそ宣教の核心」 10月23日(木) 10時半〜15時

〈泊黙想会 第一回「神は人を見捨てない」 9月20〜21日(土・日) / 第二回「神のゆるしこそ宣教の核心」 10月11〜12日(土・日) ※時間は土曜16時半〜日曜10時半

会場 「祈りの家マリア山荘」〒八九九一 霧島市溝辺町麓三六一一四 黙想会はマリア山荘ホームページでも案内しています。

聖パウロ年特別記念絵はがき発売

カトリック谷山教会

谷山教会(ムベルガ神父)では、このほど聖パウロ年がスタートしたのを記念して「あらためて聖パウロと向き合い、パウロの情熱的で行動的な信仰心を学び直す」一助になればと「聖パウロ年特別記念絵はがき(ムベルガ神父監修)」を作製した。アイコン十四種類(十四枚)のBセットと聖パウロ物語十六種類(十六枚)のCセット(定価はいずれも千七百円)とBセットとCセットを合わせたAセット(定価三千円)が用意されている。

購入希望の方は谷山教会まで。尚、遠方の方は所定の申込用紙でファックス注文が可能。その際、佐川急便による着払いで代金を支払うことができる。送料は全国一律三百円。詳しくは谷山教会まで(☎〇九九一 二六八―二〇八四)

文芸

俳句

鹿児島 徳永ノブ子
十字きる幼愛おし墓参り
出水 遠竹 睦郎
涇流の河鹿の声や涼誘ふ
出 水 沖 弘子
かたつむりふとふり返る六十路かな
純心学園 山頭 信子
キャンプにも病める司祭を祈る子等
夏雲や子供と遊ぶ万之瀬川
鹿児島 春山マリ子
遠い日の父と二人の散歩道
純心学園 川上 和
つるバラのから草描く竹垣根
ザビエル 上野千穂子
光あふれ少年の歌声響くカテドラル
雲高く亡き師を送るレクイエム
奄美 林 常広
東からいつもでる星わが神よ

短歌

大 口 森 博伸
成し得ずに置き去りにしたあのゆめ
を今果たさんと十字架を仰ぐ
鹿児島 前田 儀子
姿なき夫に逢はむと来し墓地に蟬は
激しく声しほり鳴く
純心学園 岡 俊郎
天からの教えの声か夢現日々の恵み
の糧となりたり
甲子園土ふみしめる若きらのもえる
命をたたえ学ばむ
球児らの心をこめる一球に力合はせ
て全てをこえむ
出 水 遠竹 睦郎
蟬に明け蟬に暮れゆく夏の日は一日
一日想ひ出つくる
梅雨明け暑き日射しの注ぐ中吾は
詣でぬ父母のみ墓に
純心学園 川上 和
還暦を迎へて集ふ初夏の園若き面影

お知らせ

今も残して
鹿児島 春山マリ子
一人して生まれひとり召されゆく
わが身を思い心さみしき
ザビエル 上野千穂子
夏の午後パイオルガンのパツパ聴
くステンドグラスの光のなかに
思川「俳句会」「短歌会」として
信者の皆様の詩を紹介してきたコー
ナーですが、開始から五年を経過し
当初の目的を達成いたしましたので、
終了させて頂くことになりました。
今後は、「思川」としてではなく文
芸欄の一つとして、選者を置くこと
はできませんが、皆様の詩を紙面
で紹介したいと思います。投稿下さ
います方は教区本部広報部までお寄
せ下さい。(〒八九九一〇八四一
鹿児島市照国町三十一四十二)